

令和4年新春

地蔵様とあじさいの寺

# 光照寺だより

## まっすぐ見る、ありのままに見る がんのうびちよく ぐうしゅげんきょう「眼横鼻直、空手還郷」

宗祖道元禅師は真の仏法を求めて中国に渡り天童山の如浄禅師に出会い深く悟られました。4年の後帰国した際に、「中国から何を持ち帰りましたか」と人々に問われると「眼がん横鼻直、空手還郷」と答えられました。「二つの眼は横についているし鼻は縦についている。それだけのことだが、私はそのことをようやく会得した。だから何も持たず空っぽの手で故郷に帰ってきた」と言うのです。(当時は中国留学を果たした僧は、貴重な仏像や文献、経典などを持ち帰るのが常でしたので、人々はあつけにとられ、落胆したそうです。)「当たり前のこと」の有り難さがわかれば、その他のことに惑わされることはないと言います。

一休禅師のお話です。一休さんは曲がりくねった松の盆栽に立札を立てました。「この松をまっすぐ見えた人には褒美をあげます」と。これを見た人は、どうしたらまっすぐに見えるのかと思案しましたが誰一人としてまっすぐ見ることはできませんでした。しばらくして、通りがかった旅の人がこの盆栽を見て「こりゃあ本当によく曲がりくねっている松だこと」とさざりと言いました。それを聞いた一休さんは大喜びでその旅人に褒美をあげました。多くの人は一休さんの言葉に惑わされ、褒美に目がくらみ無理にまっすぐ見ようとしたのです。旅人だけが松の木をありのままに見たのです。

「当たり前的事实を当たり前に見て、当たり前に対応し、当たり前の言動をとる」という当たり前のことがなかなかむずかしいのです。

道元禅師に戻ります。「日が東から上り、月は夜西に沈む。雲が去れば山が姿を現し、雨が来れば木々は潤って低く垂れる。ただその中で日々を過ごしているだけである。」と禅師はさらっと言われています。(参考：永平広録、慈光山最誓寺 HP)

年頭の挨拶に代えて。方丈

## あじさい百種、全山千株

あじさいは6月から7月が見頃です。昨年も多くの方においでいただくようになり、「素敵なお寺ですね」とお褒めの声もいただけるようになりました。きれいな花を咲かせるのも大変ですが、皆さんの笑顔で苦勞も吹き飛びます。本堂前の多くの鉢植えだけでなく、裏庭の「青いあじさい山」も一見です。



毎週日曜日に坐禅会しています。

早朝6時から(1月2月は9時から)です。イス坐禅もできます。終わった後のお茶飲みも楽しみです。

## 智玄さん 副住職に

修行を重ねた智玄さんが宗門管長様から副住職の辞令をいただきました。併せて光照寺の住職後任候補者として登録もしていただきました。また階級も「和尚」となり正式に「若和尚」と呼べるようになりました。

ご家庭に不要のローソク・線香がありましたら、お寺に寄付していただけませんか。四月の地蔵講の万灯供養に使わせていただきます。